





新類題發句集其之部

四月

卯月

更衣

何んぞ卯月自んも持て  
草花の書はあつた月  
衣もかきかへて人  
縁のつらふはあつた  
隣りもまわつてあつた  
衣もかきかへてあつた  
振舞ひもあつた

蝶夢編

上法

故貝

太漢

春南

百池

鼎二

馬佛

左文



裕

尾存也同し漢字の海老之  
言はるる中にもありて  
け能くもよき事ありし  
竹を朝のまゝにやまもか  
く履きし刀もよき事あり  
こほせく娘のついでに  
曾あふぬ母もよき事あり  
馬をけ使ひしやまもか  
白雲か人のまゝにけり  
之をよき事あり

二竹  
方壺  
沂山  
雪下  
騏道  
嶗山  
李雨  
素柳  
梅珠  
浪花  
浪花  
浪花

長一

綿抜

青蓋

さかると眠るのまゝに裕  
裕とてぬくもよき事あり  
まのふぬくもよき事あり  
順礼のまゝにありし  
もの神心裕乃ち目  
しと抜くもよき事あり  
縁のまゝに風たふさるる  
綿ぬきもよき事あり  
風流もよき事あり  
まのふぬくもよき事あり

乙行  
健月  
一路  
塘里  
素心  
野山  
鷺倉  
琴之  
醉茶  
後石  
瓦二







佛生會

清佛の如くは持て歸す  
灌仏や姫さきまの事  
灌佛や侍上御史の御座  
丈六の如くは佛の  
梅極の二重の古也  
の事なるに縁あり  
おの事なるに縁あり  
法印の如くは佛の  
又事なるに縁あり  
その事なるに縁あり

三打  
集家  
呂情  
布舟  
日明  
素輪  
後川  
黄璞  
麦光  
古友

佛春湯

花吉堂

丁亥春

竿躑躅

かゝる世も佛も行  
し事なるに縁あり  
世の中も竿下  
自ら事なるに縁あり  
一入りの山  
夏事なるに縁あり  
花の如くは佛の  
はか持て歸す

荊鳥  
平林  
葦歌  
吳琴  
兼人  
下苔  
花因  
魚潜  
俊次  
不老

夏籠

夏花揚







煮酒

海葦子  
短夜

又さうしつと白くは酒を煮る那  
風を煮る舟の所を風を煮る  
ふのの酒と目程酒を煮る  
こつと煮る目程酒を煮る  
みつと煮る目程酒を煮る  
短夜も月夜も明も寸  
さつと煮る梅の隅を煮る  
短夜も青も白も障子も  
短夜もさつと煮る人の仕立も  
夜の夜も第一也さつと煮る

楚良  
不友  
之尺  
妻喜  
如泉  
一貫  
柎也  
曾妹  
文里

五

青嵐

短夜も清も白も酒を煮る  
短夜も梅もさつと煮る  
こつと煮る短夜もさつと煮る  
みつと煮る短夜もさつと煮る  
短夜もさつと煮る短夜もさつと煮る  
短夜もさつと煮る短夜もさつと煮る  
短夜もさつと煮る短夜もさつと煮る  
短夜もさつと煮る短夜もさつと煮る

之兮  
五柳  
菴室  
枝法  
豊人  
雄山  
斗吟  
杏水  
梅珠















葦花

うららかなるるのうららかなるる  
白きも名利の信を纏ひて  
一に心も花のうららかなるる  
中より花のうららかなるる  
よりの花のうららかなるる  
又花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる

喜山  
蒲尺  
瓦全  
子植  
文推  
鳥奴  
宣朗  
雪貞  
如雷  
富浪

夏九

茨花

茨花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる  
心も花のうららかなるる

翠兒  
龜選  
知夕  
杏序  
風送  
東遊  
東眞  
筑峯  
田植

鳳車花

美人草

岩藤

胡蝶草

鳶尾



忍冬花	牡丹	躑躅草	茶梅	玉卷芭蕉	玉卷草	蓮浮葉	芭蕉	落
すいじょうのうきもつばき	しんげいのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき
出羽	民古	信濃	文星	梅軒	沙月	木榮	梅山	白常

蓼	青刺	草植	青山椒	桂花	枳殼	白朮	鷹爪
あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき	あしひらのうきもつばき
陸奥	渡口	南善	許國	魚鱗	兼卿	無位	阿淮



梭桐花

繡球花

岩梨

藁椿

桐花

餘花

Handwritten cursive text in vertical columns, corresponding to the plant names above.

桃牛

扇

麻子

師中

啞水

西李

起東

柯喬

孤舟

紅茗

夏上

夏木立

木下圖

Handwritten cursive text in vertical columns, corresponding to the plant names above.

一炉

聽水

成養

里柱

蝶養

大意

青容

河上

志意

大志



嫩葉

梅梅の葉のしるしは木の下  
さし葉のしるしは木の下  
古葉のしるしは木の下  
木の下に葉のしるしは  
梅乃大丸のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
梅の葉のしるしは木の下

知風  
素涼  
直之  
梅康  
幾董  
葉二  
蘭之  
出村南

嫩葉花

梅梅の葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下  
葉のしるしは木の下

梅堂  
月橋  
雀文  
玉斧  
雖美  
其里  
文里  
玉園  
冬射

病葉

葉梅



櫻美 嫩楓 葉神

美花の梅の枝のつぼみ  
もよほりや八重の二重のつぼみ  
葉梅のつぼみはあつた  
はつたつとつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた

千影 来之 央雨 柏友 宗瑞 祖明 里塘 東舟 桃次

長十卷

耳長竹 草茂 耳長野

押さへた竹のつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた  
つぼみはあつたつぼみはあつた

五雲 杜由 雀茶 栝扇 白轆 青李 届後 有以 轻舟 聖蟻











老當

郭のりあつて園の中  
鳴林のりあつて花は  
初春のりあつて跡  
竹のりあつて冷のりあつて  
本心は清い心は  
何れも春のりあつて  
枯るるのりあつて  
百のりあつて  
男のりあつて  
老のりあつて

山曉  
露夢  
春里  
滄波  
古竹  
得魚  
以白  
二蝶  
老當

夏十六

當音

古帆  
階上  
朝字  
争茂  
五井  
風勢  
重厚  
此等

古帆  
階上  
朝字  
争茂  
五井  
風勢  
重厚  
此等

布穀

此等

此等















蚊柱

さしつかへなきは風のた  
たきも目のかきさうら  
たけりもさそふて蚊の  
ききりかあさるる殿乃日  
たあさるる業のりの中  
もたけりて種目たのめり  
風のたきもさるる蚊の  
たけりとも蚊のさうら  
たきりとも蚊のさうら  
たきりとも蚊のさうら

信法 梧菴  
末 杜栗  
行亮  
丁水  
岳缸  
雨橋  
曾秋  
層凡  
子影  
蝶曼

蚊帳

紙帳

蚊遣火

さしつかへなきは風のた  
たきも目のかきさうら  
たけりもさそふて蚊の  
ききりかあさるる殿乃日  
たあさるる業のりの中  
もたけりて種目たのめり  
風のたきもさるる蚊の  
たけりとも蚊のさうら  
たきりとも蚊のさうら  
たきりとも蚊のさうら

善 魁凡  
善 斗六  
三川 根白  
五東  
徳和  
野守  
琴波  
吉巻  
栄五



好屋の火を燈して入る言海  
 痛く熱塔の系る好遣り那  
 名り火を女支心まの口  
 一里好好書ひあふりあふり  
 不いまいまいの健也蘭子入  
 いまも仲のあまらむか  
 初い心い不い好好まらむ言  
 一い東いのいあいのい強いまいらい強  
 まら好まらむ大名山流ら  
 約曲の稽まらむ初い心い不

女寸江  
花香堯  
花桂蘭  
花我白  
上土祢  
上幽管  
似似柳  
似發雨  
似里雪  
上其柳

夏廿二

鯉生節  
 鮎  
 鹿袋南  
 五月  
 辛月

牛もも増まらむ梅のえ  
 今も母の心もあまらむ  
 龍巻まらむ心もあまらむ  
 楊い心い好好まらむ箱い夜  
 今も心もあまらむ心もあまらむ  
 花も心もあまらむ心もあまらむ

梅梅のえ  
山山  
山買山  
山葛毒  
山山  
山山道

出羽  
 文二  
 完来



夏至

子の女六言のてはたさるる  
陰陽の目録のあはれは

白兒

端午

とてふも昔昔節の事  
久の事相の福の昔昔の事

素郷

葛蒲

伸也一はたさるるはたさる  
あはれなる事あはれなる事

住等

葛蒲賣

とてふ村の翁の昔昔の事  
昔昔の事あはれなる事

公雄

葛蒲葺

葺也一はたさるるはたさる  
葺也一はたさるるはたさる

湖月

夏至

蓬葺

あはれなる事あはれなる事  
あはれなる事あはれなる事

烟翠

葛蒲湯

あはれなる事あはれなる事  
あはれなる事あはれなる事

市原

葛蒲酒

あはれなる事あはれなる事  
あはれなる事あはれなる事

自涼

漢

月可

仲

寸志

女

右の

後

求五

尾

求五

赤

求五

末

都夜

素釣

烟翠



草蒲葦

水極多りし時、結ぶるありて、  
竹の葉吹く、草蒲葦の葉も、

梅明  
万世

草蒲葦

細く、結ぶるありて、  
葉の葉も、草蒲葦の葉も、

末  
賈友  
陶々

粽

毎年の、結ぶるありて、  
葉の葉も、粽の葉も、

世  
五鹿  
雪振

懺

清世の、結ぶるありて、  
葉の葉も、懺の葉も、

懺  
陰浪  
傘如

飾境

人の、結ぶるありて、  
葉の葉も、飾境の葉も、

周泉  
遊水  
徳意

印地打

阿の、結ぶるありて、  
葉の葉も、印地打の葉も、

素琴  
楯里

加義響

十の、結ぶるありて、  
葉の葉も、加義響の葉も、

吹笛  
白輪

薬目

葉の、結ぶるありて、  
葉の葉も、薬目の葉も、

柳也  
白兒

世廿卷















石菖蒲

石菖蒲の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 李守

石菖蒲の根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 鶴翅

石菖蒲の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 探叟

石菖蒲の根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 以柱

石菖蒲の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 園策

石菖蒲の根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 素兄

石菖蒲の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 寄信

石菖蒲の根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 青播

石菖蒲の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 冬雪

石菖蒲の根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 苦面

本草

萱草花

萱草花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 園策

紅蓮花

紅蓮花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 寄信

紅蓮花

紅蓮花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 寄信

紅蓮花

紅蓮花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 青播

紅蓮花

紅蓮花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 冬雪

紅蓮花

紅蓮花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 苦面

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 臥竜

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 玉燕

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 柳枝

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 雲文

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 東下

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 此流

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 道肥

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 幾葉

百合花

百合花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 傾傘

蘆花

蘆花の葉は細く長く、根は塊状で、花は白く、香気がある。

出所 傾傘







合歡

福の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も

大福 部水  
花の神 花の神  
花の神 花の神  
花の神 花の神  
花の神 花の神

石榴花

未央柳

盧橘

福の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も

大福 部水  
花の神 花の神  
花の神 花の神  
花の神 花の神  
花の神 花の神

梨花

棟花

南玉

紫陽花

福の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も  
花の神も花の神もさかすまの神も

大福 部水  
花の神 花の神  
花の神 花の神  
花の神 花の神  
花の神 花の神



此の如き人... 関花  
 下毛花  
 覆金子  
 蟹豆花  
 又采實  
 山施子花

長年

生胡桃  
 青梅  
 于梅  
 煮梅  
 早桃  
 杏子  
 李子

如左  
 瓦山  
 瓦士  
 涌山  
 有隣  
 笠古  
 翔雲  
 青窓  
 玉園  
 晋信







今年竹

竹の葉もや旅の心もさるる  
 秋の竹もや旅の心もさるる  
 美しき竹の葉の心もさるる  
 あまの竹の葉の心もさるる  
 若竹の葉の心もさるる  
 月竹の葉の心もさるる  
 和竹の葉の心もさるる  
 わか竹の葉の心もさるる  
 こゝ竹の葉の心もさるる  
 隙の竹の葉の心もさるる

長三二

早苗圃

竹は落

雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる  
 雨の竹の葉の心もさるる

下竹 散居  
 日向 杜若  
 土佐 白鹿  
 飯前 意白  
 須美 須美  
 強山 一眠  
 大和 如洋  
 花溪



早苗

田植

けりまふ敵と嫁とてし  
少くは戦ふしりし子も  
苗もや能のこま指のま  
林もよふ山はせむる  
くもあつたてのうら  
あまのちを植てはさ  
植てあつたてのうら  
一より田のうらた  
あまのちを植てはさ  
あまのちを植てはさ

泰山  
藤亭  
故栖  
折風  
蝶碎  
呂教  
紫山  
指鳩  
稔美  
東圃

長子巻

早女

こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら  
こころもあやむるのうら

南龍  
松美  
木北  
鳥秋  
千友  
了明  
杜音  
竹波  
楚時  
青宮



青田

余のこゝろはあつて... 杜考  
谷水  
藤島  
采姑  
徳島  
蒲戸  
篠夢  
巴川  
竹雨  
普泥

田舎

長三

芝植

虫

菖蒲... 斗六

斗六  
彦雄  
右波  
楚流  
葉二  
鳳効  
太布  
東舟  
春牧  
徳島



















辻花  
清きよきくさきくさ  
はな  
和歌  
間山  
糸吟

六月

水鏡月  
この月も食ひ飽かすに似たり  
和泊

みどり梅も人の心強きもの  
古謙

氷室  
ふたも梅のころ氷室の  
安藝  
舟西

ふたも梅のころ氷室の  
但馬  
西屋

行はぬ都へ入るも舟西守  
浪客  
廻心

あはれもいふはなはな

氷賣  
この氷賣のころはなはな  
和歌  
鳴祖

あはれもいふはなはな  
上野  
杜音

氷餅  
あはれもいふはなはな  
葉陰

あはれもいふはなはな  
後袴

あはれもいふはなはな  
用坊  
枝風

一夜酒  
あはれもいふはなはな  
長門  
蕙里

あはれもいふはなはな  
和歌  
青史

嘉祥  
あはれもいふはなはな  
京  
万花

あはれもいふはなはな  
萬道

祇園會















行拭 掛香 日傘 筆

夕方のくちかしくやと白  
 現るるもあつたかたは  
 坐忘もつとる程に二あて  
 九折の色袂さす一に好ま  
 あつたものさあつたあつた  
 子もやとあつたあつた  
 朴もくはあつたあつた  
 筆もくはあつたあつた  
 すもくはあつたあつた  
 枕もくはあつたあつた

張り 兼白  
 送人  
 坐忘  
 徳如  
 幽管  
 大和 芙蓉  
 後片 一考  
 辰不 山名知  
 紀行 子晋  
 一上

耳四巻

籠枕 抱籠 此婦人 暑

さあつたあつたあつた  
 ねあつたあつたあつた  
 かあつたあつたあつた  
 抱あつたあつたあつた  
 たあつたあつたあつた  
 吹あつたあつたあつた  
 ねあつたあつたあつた  
 ああつたあつたあつた  
 ねあつたあつたあつた

行亮  
 李流  
 東芽  
 素兒  
 日金  
 杉島  
 猪史  
 只言  
 左隆  
 達而







白雨

白雨 白雨 白雨 白雨 白雨 白雨 白雨 白雨 白雨 白雨  
後漢 葩文  
白 重厚  
後 白麻  
後 繼室  
末 成夏  
後 梨陰  
末 附鳳  
紀 馬來  
紀 李庭  
 春甫

夏田ノ五

雨乞

雨乞 雨乞 雨乞 雨乞 雨乞 雨乞 雨乞 雨乞 雨乞 雨乞  
後 嘗杉  
 東走  
 習之  
 極序  
後 那弓  
後 葛下  
後 紫雲  
 後川  
 臨華  
 紫芝



凉

木越安房 砂垣安房 杜由安房 寸木安房 馬頸 馬吹 招清 羽立出羽 曾川出羽

薰風

行遠出羽 披雲出羽 東李出羽 紫茹出羽 吳德出羽 兩人出羽 龜息出羽 迎月出羽 了卜出羽 雪下

納凉











水飯	引飯	切麥	冷汁	煮冷	麻地酒	夏切茶	香露散
水飯不亂凍く夏者の草が	引飯や省かしくる尾の草	乾い草やつれ草なる色草	乾い草や水田切乾の門	乾い草や水田切乾の門	乾い草や水田切乾の門	乾い草や水田切乾の門	乾い草や水田切乾の門
葉隠	得々	由木	冬香	東門	孝安	為工	滄浪

夏四九

夏瘦	靴拂	曝井	蓮
夏瘦は杖杖歌てるも雪の月	靴拂は月夜の山を歩	曝井は小娘の顔のあかぬ	蓮は白く白く白く白く
雪居	文波	几董	作雲
南瓜	倭泉	未龍	鷲橋
桂蘭	香露		







石竹

せせりやもさほあまのこ

女 藤曼 毒に

釣鐘

釣鐘の音ははるかにきこゆ

一徹

風蘭

あまのこもあまのこもあまのこ

葉兒

玉簪

まじりもあまのこもあまのこ

雀

虎耳

その花はあまのこもあまのこ

聖弓

鷺草

さくらもあまのこもあまのこ

糸 帰棠 有言

射干

あまのこもあまのこもあまのこ

近江 一羽

夏五ノ一

青鬼燈

あまのこもあまのこもあまのこ

近江 且來

林檎

あまのこもあまのこもあまのこ

出羽 青楓

麻

あまのこもあまのこもあまのこ

越前 楚水

夏草

あまのこもあまのこもあまのこ

大隅 菊羽 有胡

綿花

あまのこもあまのこもあまのこ

信濃 南人

紫菀

あまのこもあまのこもあまのこ

佐賀 鼓勢

小角豆

あまのこもあまのこもあまのこ

河内 卦士



胡麻  
三葉瓜

垣らるゝの勢くぬかる角意  
瓜と葉と果と白くやこす細  
瓜むしや木井陰ひるあう  
冷瓜より着るや井の紙  
瓜の皮むしりて煮る表  
瓜の肉むしりて煮る  
瓜の皮むしりて煮る  
瓜の肉むしりて煮る

山麻  
如雷  
喜燒  
桂合  
青山の  
純壽  
蝶碎  
桐字  
得々  
塔雨

夏五ノ二

夕顔

午圓花をばあつた  
申の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた  
夕の葉をばあつた

鳥語  
有魚  
露雲  
寛沙  
桃五  
巴明  
雨橋  
友字  
漱石  
采珠



百日

多しんしんしんしんしんしんしん

行勢

素行

改めしんしんしんしんしんしん

九方

鳴水

改めしんしんしんしんしんしん

九方

文野

改めしんしんしんしんしんしん

末

一風

改めしんしんしんしんしんしん

佳極

常羽遺精

雲雀鷹

練雲雀

鷹神化虫

蟬

多しんしんしんしんしんしん

上

飛川

改めしんしんしんしんしんしん

修勢

芦皓

改めしんしんしんしんしんしん

改

楚舟

改めしんしんしんしんしんしん

桃明

長舟冬

空蟬

多しんしんしんしんしんしん

寛例

改めしんしんしんしんしんしん

普成

改めしんしんしんしんしんしん

張

菁我

改めしんしんしんしんしんしん

陸

柳英

改めしんしんしんしんしんしん

蝶夢

改めしんしんしんしんしんしん

出羽

志信

改めしんしんしんしんしんしん

如圖

改めしんしんしんしんしんしん

陸

夢露

改めしんしんしんしんしんしん

道肥

改めしんしんしんしんしんしん

始百



毛虫

蛭

繩

蚤

Handwritten cursive text in the right column, corresponding to the '毛虫' section.

馬隨  
升六  
綠山  
尚春  
翠臺  
風後  
如泊  
抵雨  
木架  
几葦

夏五十四

燈蛾

夏虫

蜻蛉

海月取

Handwritten cursive text in the left column, corresponding to the '燈蛾', '夏虫', '蜻蛉', and '海月取' sections.

菊二  
有若  
白沙  
青標  
得佳  
只言  
相友  
孤舟  
橋中  
東和







